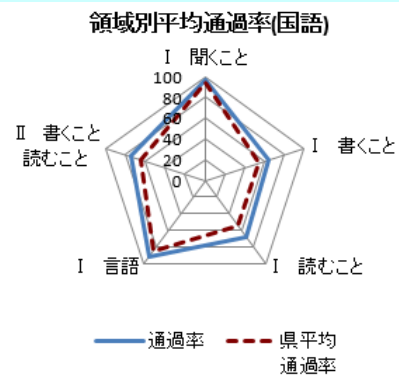
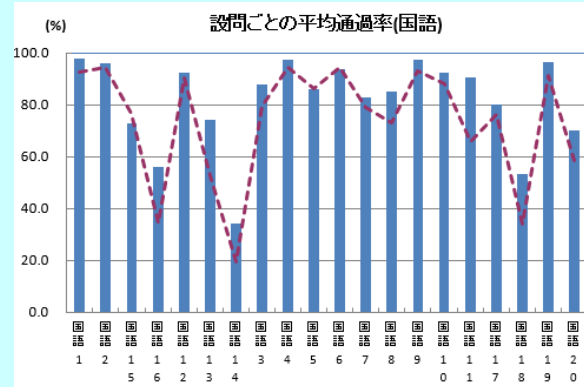


## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.4%, 県 73.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

○国語の結果において、タイプⅠは83.4%、タイプⅡは74.9%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考える。

○明らかとなった課題としてはⅠ「書くこと」の領域である。通過率が昨年度85.9%であったが今年度は64.2%に低下している。単元の特色に応じて、書く活動を取り入れていったが、これからは特に結論と根拠を明確に区別して書くことを意識して書かせることが必要である。

「聞くこと」は96.8%、Ⅰ「言語」90.3%、Ⅱ「書くこと読むこと」は74.9%で、それぞれ指導が一定の成果を挙げていると考えられる。しかしⅠ「読むこと」の通過率は66.8%であり中でも「登場人物の心情の把握」が33.9%で県の平均は超えてはいるが課題があることがはっきりした。なお通過率が30%以下の生徒が3名おり、基礎学力定着のための支援が必要である。

### 重点課題

#### 【課題1】

「登場人物の心情の把握」の問題の通過率が33.9%（広島県平均19.4%）である。幼い子どもの歩く姿を、これからの自分に重ね合わせて、前向きに生きていこうと決意する場面であるが、子どもの姿と主人公の心情を照らし合わせて読み取ることができていない生徒が多い。

#### 【課題2】

「叙述の仕方の確認」の通過率が55.9%（広島県平均34.3%）である。主語・述語の関係を読み取れていない生徒が多いことから、主語である「私は」を補うことができていない生徒が多い。

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

#### 【課題1】

文学的な文章を読み取る指導においては、場面展開や情景描写と人物の心情を照らし合わせる学習活動を取り入れる。その際情景描写や場面展開などを根拠として挙げながら、登場人物の心情を説明する学習活動を設定する。通過率30%未満の生徒には辞書を用いて形容詞・形容動詞の意味を調べさせ、ノートに一覧表を作らせることで心情を表す語句の語彙を増やす。

#### 【課題2】

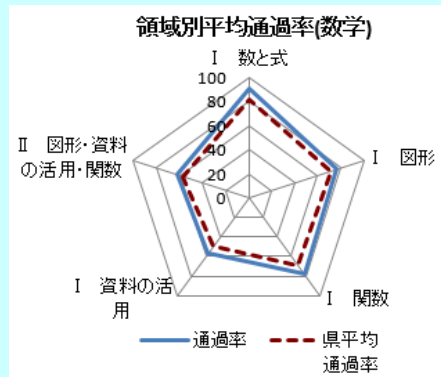
様々な文章から主語をとらえさせる指導を取り入れるとともに、文章を読み取る際には主語を補う学習活動を設定する。また、説明的文章を読み取る際には1つの文に複数の情報が盛り込まれている際、分かりやすく幾つかの文に分けて書き換えさせる活動を取り入れる。通過率30%未満の生徒には小テストを繰り返し行い、主語述語の関係の定着を図る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 H27「基礎・基本」		1年生 冬休み明けテスト	1年生 H27「基礎・基本」	1・2年生 学年末試験
目標値			50.0%		45.0%	50.0%	55.0%
実施後数値							

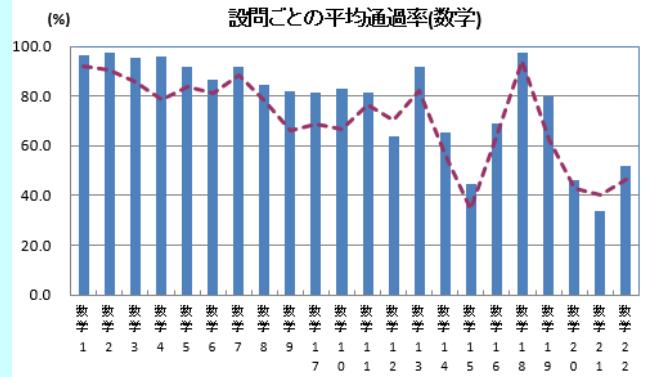
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 H27「基礎・基本」		1・2年生 冬休み明けテスト	2年生 H26「全国学力」	2年生 学年末試験
目標値			70.0%		70.0%	77.0%	70.0%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 77.7%, 県 70.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 数学の結果において、タイプⅠは82.2%、タイプⅡは61.7%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えている。しかし、一方では誤答率が50%を超える問題が3問もあった。
- 昨年度は「資料の活用」と「数と式」(不等式の読み取り)に課題が見られた。昨年度は少人数指導を行い「数と式」については重点的に指導した。文字式の読みや関係を文字式で表す設問の通過率は共に80%を超えていた。しかし、「資料と活用」の内容は通過率が低く用語の意味の理解や値を求めることに課題が見られた。全体的に「数と式」の内容以外の通過率は高くなく、また通過率80%以上の生徒の割合は55.9%であり、全般的に底上げが必要であると考えている。

## 重点課題

### 【課題1】

表から中央値を求める問題に課題がある。度数分布表の中央にある値を中央値と解釈している生徒は19.9%。(通過率44.6%)

### 【課題2】

比例のグラフの特徴について数学的な表現を用いて記述する問題に課題がある。比例のグラフの特徴である直線という用語を用いることはできていたが、原点を通るということを明記していない生徒は約45%。(通過率33.9%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

### 【課題1】

中央値だけに関わらず、資料と整理の内容で学習する用語を用いた問題を行う量が不足しているため、多くの問題に取り組ませる必要がある。また、度数分布表やヒストグラム等から値を求めることで用語の意味もより定着できると考える。生徒は用語の漢字から意味を読み取ろうとしている傾向もあるので、正確な意味を理解させたい。通過率30%未満の生徒には用語をそれぞれ分けて整理できるようにプリント等配布する。

### 【課題2】

生徒は式から比例のグラフをかくことはできるが、原点を通ることが比例の内容で重要であることを捉えていない。対応表においてxとyの値の関係について着目させる授業展開が必要である。比例の関係であるとき、xの値が0のときのyの値が0に必ずなることを確認させる。また、通過率30%未満の生徒には比例や反比例の意味や特徴を理解できるように、導入時に生徒の意欲が高まるような指導が必要である。

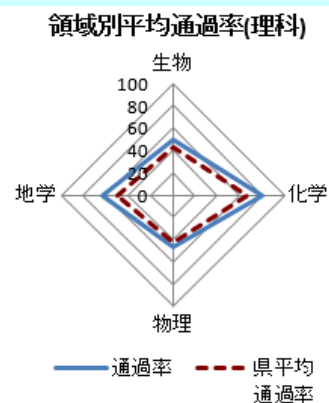
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H27「基礎・基本」		2年生 H27「基礎・基本」		2年生 後期第2回定期試験		1年生 学年末試験
目標値	60.0%		65.0%		70.0%		80.0%
実施後数値							

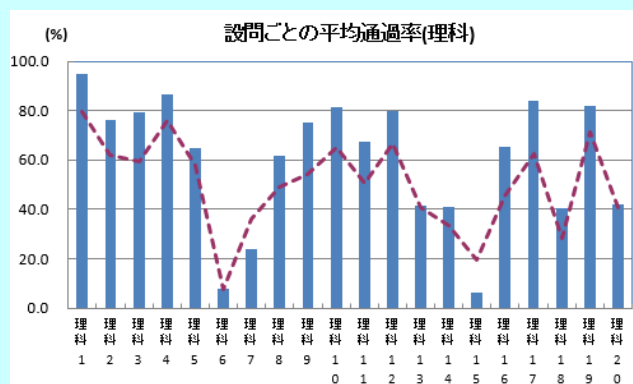
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H27「基礎・基本」		1年生 後期第1回定期試験		2年生 後期第2回定期試験		1・2年生 学年末試験
目標値	65.0%		65.0%		75.0%		80.0%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.9%, 県 50.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 理科の結果において、タイプⅠは60.4%、タイプⅡは59.2%の通過率となっている。タイプⅠで通過率の高かった領域・内容は、化学「気体の捕集方法」(94.6%)、タイプⅡでも化学「実験結果を分析・解釈して、結論を導き出す」(79.0%)だった。タイプⅠで課題がある領域・内容は、生物「裸子植物と被子植物の花の違い」(7.5%)、タイプⅡでは物理「圧力に関する身近な現象」(6.5%)だった。
- タイプⅠのような科学用語を問う問題の通過率はどの分野も高かったが、科学用語を身近な事物・現象と関連付けて答える問題に課題がある。
- 県平均は上回っているが、「実験結果をもとに考察する」、「実験結果を分析・解釈して、結論を導き出す」など、全体で見ると実験に関わる内容や実験器具の使用手順の通過率が低い。

### 重点課題

#### 【課題1】

圧力について、力の大きさ、接触面積、圧力の大きさの関係を日常生活と関連付けて説明する問題に課題がある。圧力に関わる3つの要因の関係性を正しく説明できていないことから、圧力の概念が十分に形成されていないと考える。(通過率6.5%)

#### 【課題2】

被子植物と裸子植物の花の違いを答える問題において、比較する視野の広さに課題がある。(通過率7.5%)

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題1】

スキー板などを使って日常生活と関連した圧力の実験を行う。その際、圧力に関わる3つの要因の条件を変化させ、これらの関係性を理解させることで、圧力の概念を形成させる。通過率30%未満の生徒については、条件を変化させる際にイメージがわからない場合は視覚教材を使い、何がどう変化したのか視覚的にとらえさせるようにする。

#### 【課題2】

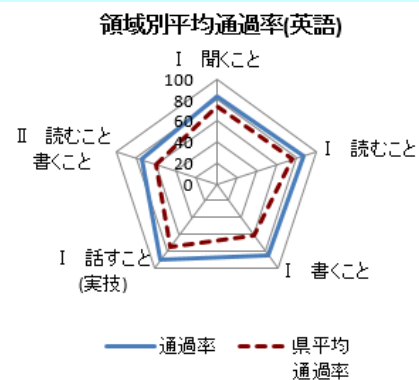
被子植物と裸子植物の観察の際に、観察する視点を増やし比較させることで特徴を多面的にとらえさせる。また、まとめて班や全体でお互いの気づき等を交流させ、視野を広げる。通過率30%未満の生徒については、くり返し確認テストを行い、知識の定着を図る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 後期第1回定期試験		1・2年生 冬休み明けテスト		1・2年生 学年末試験
目標値			30.0%		40.0%		55.0%
実施後数値							

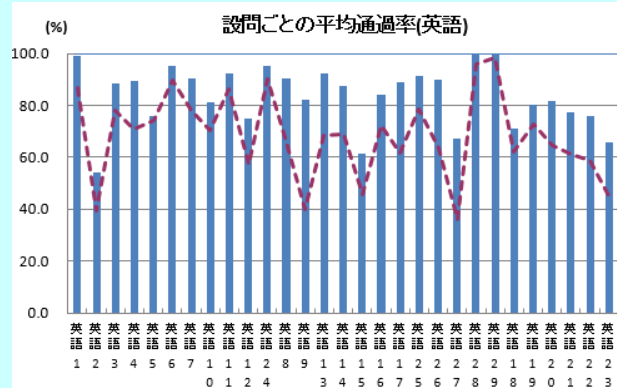
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 後期第1回定期試験		1・2年生 冬休み明けテスト		1・2年生 学年末試験
目標値			45.0%		55.0%		65.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 83.5%, 県 68.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○英語の結果において、タイプⅠは85.7%、タイプⅡは75.3%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容についてはおおむね定着が図られていると考えられる。その一方で、特に主語が三人称単数の場合の動詞の形を正しく理解していなための誤答が多い。文の主語と動詞との関係を正しくとらえ、肯定文、否定文、疑問文を正確に書く力を高めることが課題である。  
 ○昨年度は特に「書くこと」の領域について課題が大きく、タイプⅠ・Ⅱともに60%前後の通過率の問題が多く見られた。そのため、授業や家庭学習において単語や基本文を書く回数・量を増やし、繰り返し指導を行い、書くことの基礎力の向上を図った。また、身近な人物の紹介や日記など、自己表現を織り交ぜながら書く活動にも継続的に取り組ませた。その結果、タイプⅡの無答率が7.1%から2.4%に減り、全体的な通過率アップにつながった。

重点課題

【課題1】

三人称単数の主語を使って一文を書く問題で、don't likes や doesn't likes など、主語の人称と動詞の形及び時制のルールが正しく理解できていないため誤答となった生徒の割合が26.3%である。(通過率61.3%)

【課題2】

まとまりのある英文を読み、その中に出てくる人物のことを他人に説明する英文を書く問題で、動詞の形等の文法的な誤りが1～2箇所見られるために準正答となった生徒の割合が35.5%である。(通過率65.6%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

主語となる名詞や代名詞について、その人称を正しくとらえさせることが必要である。そのために、機械的な口頭ドリルや文の視写などの反復・繰り返し学習を徹底して行う。その際、まずはSV, SVOで語数や句数の少ない肯定文や、疑問詞を含まない疑問文などを多く取り上げ、主語と動詞の関係を生徒が十分に意識できるよう工夫する。

【課題2】

一人称主語の文と三人称主語の文を双方向に言い換え、書き換えをする Retelling の力を伸ばすことが必要である。そのために、ペアワークやグループワークなどで友達の書いた自己紹介の内容を第三者に紹介するスピーチをしたり英文を書いたりする活動を計画的に取り入れる。また、有名人の紹介文を用意するなどの方法により、表現への意欲を喚起する工夫を図る。

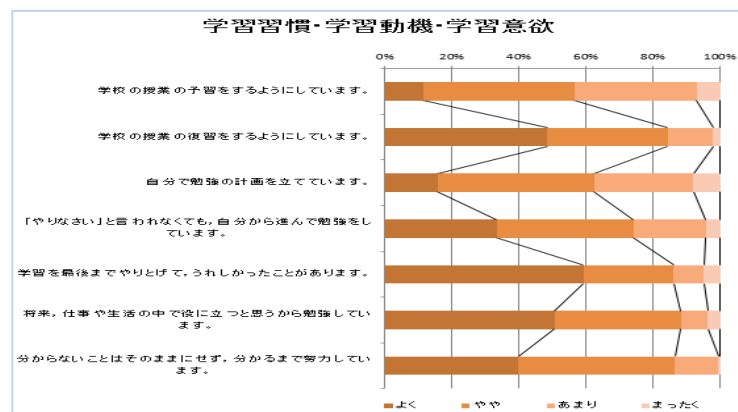
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H27「基礎・基本」		1年生 後期第1回定期試験		2年生 後期2回定期試験		1年生 学年末試験
目標値	65.0%		65.0%		75.0%		70.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H27「基礎・基本」		2年生 後期第1回定期試験		2年生 後期2回定期試験		1年生 学年末試験
目標値	70.0%		72.0%		75.0%		70.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

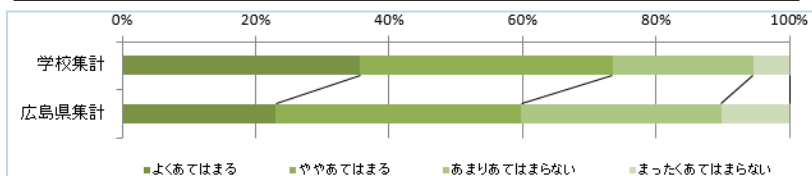
(1) 生活・学習



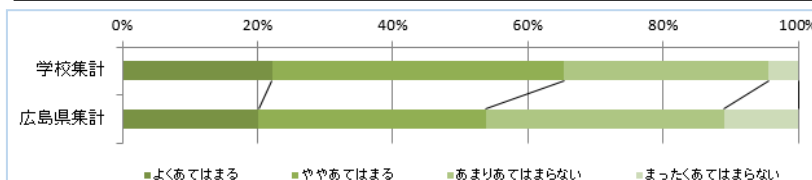
生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
学習習慣に関する質問に対して、「学校の授業の予習をするようにしています。」(56.5%), 「自分で勉強の計画を立てています。」(62.4%)と肯定的な回答をした生徒の割合が他の項目より低い。	自主勉強ノートの取り組みにおいて、授業の予習も含め、内容をより深めるように学級指導を行う。また、定期試験において、学習計画を立てさせるとともに、評価を行い、日ごろから計画的に学習する姿勢を身に付けさせる。	1・2	70%	生徒アンケート調査	2月		

(2) 教科

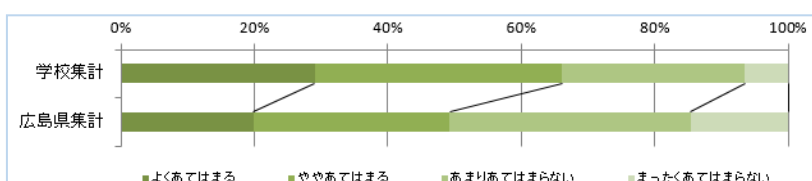
国語の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるか考えたりしています。



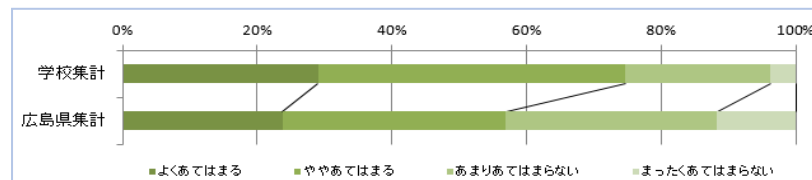
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるか考えたりしています。」に肯定的な回答をした生徒が73.5%であった。	学んだことが、実生活の中でどのように使うことができるのか、考える場面を設定する。具体的には、生徒の自己評価カードに実生活で活用できたかどうかの項目を設ける。	1・2	80%	生徒アンケート調査	2月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明しています。」の問いに肯定的な回答をした生徒が65.4%であった。	授業展開の中で他者と話し合う場面の回数が少ないので、多様な考え方が存在する問題を多く扱う。その中で理由を発表させる。	1・2	80%	生徒アンケート調査	2月		
理科	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりしています。」の問いに肯定的な回答をした生徒が66.1%であった。	他者に説明するために自分の考えを組み立てる時間を十分に確保し、班や全体で交流する場面を増やす。	1・2	75%	生徒アンケート調査	2月		
英語	「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。」の問いに肯定的な回答をした生徒が74.7%であった。「よくあてはまる」と答えた生徒は3割に満たなかった。	授業の序盤に設ける「帯活動」の時間を工夫し、ペアによる会話形式の基本文インプットを行う。また、短いスピーチの発表にも取り組ませ、音読等とともにパフォーマンステストで評価する。	1・2	80%	生徒アンケート調査	2月		